



TITLE:

昭和49年度本館利用状況について

AUTHOR(S):

---

CITATION:

昭和49年度本館利用状況について. 静脩 1975, 12(1): 1-4

ISSUE DATE:

1975-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36731>

RIGHT:

## 昭和49年度 本館利用状況について

本館では、昭和49年度は通常の開館状況であった。毎年何らかの工事のため、この数年は臨時閉館のやむなきに至った事情が続いていた。たとえば、一昨年の天井補修工事、その前年の参考図書室の冷房設備工事など、1か月前後閉館する状態であったから、49年度はまあまあ穏やかな年であった。ただ、年度末の一週間だけ開架図書室の拡張のため臨時閉館したにすぎなかった。

まず部局別利用状況<表1>を48年度と対比

してみると、総利用数では5,991冊(約7%)、3,540人(約8%)の増である。出納日数は、48年度は第1閲覧室および開架図書室の天井補修工事のため、開架図書カウンターは236日、庫内図書カウンターは261日と日数が異なっているが、49年度は開館日数282日、出納日数256日で20日間ほど多かった。しかし、1日平均では165人と全く同一である。このことは「静脩11巻1号：48年度本館利用状況について」に報告され

<表1>

利用者別利用状況

利用区分 利用者別		開 覧			貸 出	合 計		昭和48年度		差	
		開 架	庫 内	計	庫 内	冊 数	人 員	冊 数	人 員	冊 数	人 員
学 生	教 養	11,367	1,019	12,386	1,130	13,516	7,929	16,720	9,507	-3,204	-1,578
	法	19,379	329	19,708	554	20,262	10,965	18,680	10,069	+1,582	+ 896
	経	1,596	316	1,912	283	2,195	1,263	1,279	786	+ 916	+ 477
	文	3,350	2,177	5,527	1,929	7,456	3,705	5,811	3,100	+1,645	+ 605
	教 育	822	75	897	116	1,013	588	366	202	+ 647	+ 386
	工	7,589	349	7,938	318	8,256	4,835	7,947	4,638	+ 309	+ 197
	理	6,777	499	7,276	279	7,555	4,116	5,143	2,951	+2,412	+1,165
	農	1,001	159	1,160	104	1,264	791	1,307	824	- 43	- 33
	医	205	50	255	47	302	157	371	197	- 69	- 40
	薬	375	11	386	22	408	239	470	269	- 62	- 30
2. 大学 院 生		3,125	2,455	5,580	3,166	8,746	4,009	8,486	3,131	+ 260	+ 878
3. 職 員		313	1,705	2,018	2,823	4,841	1,555	4,584	1,538	+ 257	+ 17
4. 研修員ほか		1,255	1,115	2,390	733	3,103	847	3,320	734	- 217	+ 113
5. 学 外 者		298	5,084	5,382	0	5,382	1,189	3,824	702	+1,558	+ 487
合 計		57,452	15,343	72,795	11,504	84,299	42,188	78,308	38,648	+5,991	+3,540
1 日 平 均		224	60		45	329	165				

ているように、本館の利用状況がある程度、安定した利用度を示している結果と思われる。

配置別の利用率は、開架図書＜68.2％＞、庫内図書＜31.8％＞と圧倒的に開架図書の利用が多い。反面、庫内図書の利用が毎年30％程度を維持していることはそれなりの理由がある。それについてはあとで述べるが、今後とも庫内図書の利用は一定した利用度を保持するに違いない。

学部学生の利用をみると、その利用率は＜表2＞に示したように、法学部・教養部・工学部の順である。教養部は47年度までは第1位、48年度からは第2位となっているが、49年度は前年度から3,204冊、1,578人減となっている。工学部は昨年度と同様第3位であるが、利用率で0.3％減、利用冊数では309冊増であった。自然系の学部では工学部について理学部学生の利用が多いのが特徴で、農学部・薬学部・医学部を大きく上回っている。本館から1km程度離れた位置にある理学部の学生の利用が、理学部と同じキャンパスにある農学部と大きな差があるのはなぜか。49年

度は2,400冊増と、他部局に較べて最高の増加となっている。その理由を裏付ける証拠はないが、農・薬・医各学部には中央図書室があつて学生用図書を配架していること、また、過去3年間、指定図書の一部が配置されるようになっているが、理学部の指定図書は本館に置かれている結果とみられないこともない。

法学部は30％を越す状況で第1位である。以前から、法学部から本館へ学部学生用図書を配置して利用に供していたこともあつて、開架図書室の蔵書構成で法学部が25％を占めていることも影響しているだろう。法学部図書室の学部学生の利用は6,924冊、5,313人（法学部49年度利用統計表による）となっているから、本館での利用よりも冊数では $\frac{1}{2}$ 、人数は $\frac{1}{2}$ で、法学部学生の本館利用は少しも減少しない。それと逆に、教養課程の学生は減少している。2年前に教養部図書館が出来て2万冊の開架図書を配架したためか、教養部図書館の過去10年間の利用統計によれば48年度約4,000冊、49年度3,600冊増となつてお

＜表2＞

利用者別		利用率		A 49年度（冊数）				B 前年度との比較		
		開架図書	庫内図書	48年度	49年度	差		パーセント	冊数	引
1. 学部学生	教養	19.8 %	8.0 %	21.4	16.0	- 5.4	- 3,204			
	法	33.7	3.3	23.8	24.0	+ 0.2	+ 1,582			
	経	2.8	2.3	1.6	2.6	+ 1.0	+ 816			
	文	5.8	15.3	7.4	8.8	+ 1.4	+ 1,645			
	教育	1.4	0.7	0.5	1.2	+ 0.6	+ 647			
	工	13.2	2.5	10.1	9.8	- 0.3	+ 309			
	理	11.8	2.9	6.6	8.9	+ 2.3	+ 2,412			
	農	0.8	0.9	1.7	1.5	- 0.2	- 43			
	医	0.4	0.3	0.5	0.4	- 0.1	- 69			
	薬	0.7	0.1	0.6	0.5	- 0.1	- 62			
2. 大学院生		5.4	20.9	10.8	10.4	- 0.4	+ 260			
3. 職員		0.5	16.9	5.9	5.8	- 0.1	+ 257			
4. 研修員ほか		2.2	6.9	4.2	3.7	- 0.5	- 217			
5. 学外者		0.5	18.3	4.9	6.4	+ 1.5	+ 1,558			
合 計		100.0	100.0	100.0	100.0					
%		68.2	31.8		100.0					

り、本館では昭和48年度4,800冊、49年度3,204冊という数字であるから、本館の減少分がそのまま教養部の増とはいえないにしても、新館建築によって新しいサービス体制を整えることで利用増となることは、当然のことであろう。

学部学生を除く、大学院生・職員（主に教官）の利用の大部分は庫内図書の利用である。学外者の場合も同様であるが、年々増加の傾向があり、特に49年度は冊数40%、人員70%増となっている。

つぎに庫内図書の利用についてみると、部局別利用は開架図書と全く異なっている。開架図書との比は31.8%にすぎないが、これは毎年ほぼ一定しているが、その利用者層の63%は学部学生以外の人達である。また、学部学生のなかでは文学部学生がその50%を占めている。前にもふれたように、庫内図書の利用が一定の利用度を示し、開架図書の利用層と大きく異なるのは、本館の70年以上の歴史のなかに罹積されてきた文献が国文・語学・歴史・地理分野を主体とする蔵書構成となっているために、特定の資料を求める利用者による利用が考えられる。しかも、これらの資料はすべて貴重なものであるために、おそらくこんごともある一定の利用度を示すことであろうし、図書館として永く文献所蔵・保存の重要な面が要求されている点が窺える。大学院生の庫内図書20.9%の利

用の研究科別をみると、文学研究科の利用が多いことから同じことがいえる。さらにこれを裏付けるものとして、分類別利用状況<表3>がそのことを示している。開架図書では、2門<36.8%>、6門<30.3%>、4門<12.7%>で約80%を占めるが、庫内図書では4門<28.6%>、5門<16.4%>に続き10門・1門・2門・3門の人文社会科学関係が80%を超えている。学外者の利用は、自館には所蔵していない資料を利用することを原則としているから、当然のことながら、庫内図書の利用が94%を占めている。しかし、年々増加している理由として考えられるのは、大学間の相互利用の考えが普及したこと、「図書総目録」の完成、本館が多くの貴重な資料を所蔵していることが挙げられる。

以上のような49年度の利用状況であったが、48年度から宿題であった部局別と分類別を組合せた統計表が実施出来なかったのは残念であった。この点を早急に検討すること、また開架図書の貸出を実施していないことについても、館内で十分討議を進める必要がある。

なお、ここに示した利用統計表には、参考図書室・雑誌室の利用および化学系ソ連英訳誌、アメリカ研究センター図書の利用は含まれていないことをつけ加えておきたい。

（武内）

&lt; 表 3 &gt;

## 分 類 別 利 用 状 況

区 分		関 覧			貸 出	合 計		
分 類 別		開 架	庫 内	小 計	庫 内	合 計		利用率
和 書 ( ) 内は N D C	1 宗 教 ・ 哲 学 (1)	2,382	984	3,366	1,297	4,663		6.5
	教 育 (3)	833	119	952	294	1,246		1.7
	2 法 律 ・ 政 治 (3)	17,925	591	18,516	868	19,384		26.9
	3 経 済 ・ 社 会 (3)	2,859	661	3,520	915	4,435		6.2
	4 文 学 (9)	2,778	3,853	6,631	2,548	9,179		12.7
	語 学 (8)	1,338	202	1,540	208	1,748		2.4
	5 歴 史 ・ 地 理 (2)	1,484	1,985	3,469	1,733	5,202		7.2
	6 自 然 科 学 (4)	14,755	260	15,015	304	15,319		21.3
	7 医 学 (4)	392	254	646	211	857		1.2
	8 工 学 (5)	2,801	178	2,979	111	3,090		4.3
	軍 事 (3)	39	23	62	111	173		0.2
	芸 術 (7)	632	808	1,440	389	1,829		2.5
	9 産 業 (6)	328	247	575	360	935		1.3
	10 全 書 ・ 叢 書 (0)	184	2,350	2,534	1,254	3,788		5.3
	図 書 館 学 (0)	3	24	27	180	207		0.3
計		48,733	12,539	61,272	10,783	72,055		100.0
洋 書 ( ) 内は N D C	1 Philosophy (1)	0	40	40	48	88		
	Aesthetics (7)	0	6	0	0	0		4.7
	2 Social sciences (3)	0	44	44	77	121	204	
	Religion (1)	0	73	73	10	83		10.8
	3 Philology (8)	135	188	323	16	339		18.0
	4 Library science. Bibliography (0)	0	35	35	92	127	301	
	Literature (9)	0	94	94	80	174		16.0
	5 History (2)	0	34	34	44	78		4.1
	6 European History (2)	0	97	97	37	134		7.1
	7 Sciences (4)	0	88	88	96	184		9.8
	8 Art. Music. Theatre. Sports (7)	0	13	13	117	130	154	
	Industries (5)	0	5	5	6	11		
	Agriculture (6)	0	1	1	10	11		8.2
	Military (3)	0	2	2	0	2		
	9 Geography & Travels (2)	0	20	20	14	34		1.8
	10 Encyclopaedia & Periodicals (0)	0	294	294	74	368		19.5
計		135	1,028	1,163	721	1,884		
和 書 ・ 洋 書 合 計		48,868	13,567	62,435	11,504	73,939		100.0